

# 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた単元構想〈小・国語〉

特別研修員 国語 橋 友代（小学校教諭）

単元名 説明の工夫を読み取ろう「アップとルーズで伝える」（第4学年） 全11時間計画

## 単元のねらい

筆者の考えを支える理由や事例に着目して、説明の仕方の工夫を理解することができるようにする。

## 単元構想の意図

本単元では、筆者の考えを支える理由や事例を通して説明の仕方の工夫を知り、自分の考えにそれを活用できる力を身に付けることを目指します。つかむ過程では、主体的に学習に向き合えるよう、適切な言語活動を設定します。特に、児童の実態に合ったモデル文の作成を意識します。追究する過程では、既習事項を積極的に活用させ、学習のつながりが感じられるようにするとともに、単元で身に付けさせたい新たな資質・能力の必要性を感じられるように、児童同士の交流の時間を確保し、児童の気付きを大切にします。まとめる過程では展覧会を行い学びを実感させ、単元全体を振り返ることと教材にとらわれず、説明の仕方の工夫が身近な場面でも生かせることに気付かせるよう構成しました。

過程	主な学習活動	主体的な学習のための適切な言語活動
つかむ(1)	<p><b>1. 単元の課題を把握する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○モデル文に出会い、単元の課題を設定する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     説明の仕方を工夫して、「選ぶのはどちらだ？展覧会」を開こう！                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○既習事項を基に、学習計画を立てる。</li> </ul>	<p>児童の関心が高まり主体的に活動できるような、魅力的な課題を設定するために、言語活動にワクワクするような名前を付けたり、児童の実態を把握し、身近な題材を活用してモデル文を作成したりする。</p> <p><b>学習のつながりと新たな学びの必要性</b></p> <p>下学年の教科書を提示し、既習の単元を想起させたり、既習事項を児童から出させたりすることで、学びのつながりを感じさせる。また、既習事項だけでは課題が解決できないことに気付かせ、新たな学び（資質・能力）の必要性を実感させる。</p>
追究する(8)	<p><b>2. 課題を追究する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教材文の写真に着目し、対応している段落や文を探す活動を通して、教材文の概要を捉える。</li> <li>○問いと答えの文に着目し、筆者の考えを捉える。</li> <li>○筆者の考えを支える理由を見付け、「事例」や「対比」を知り、活用する活動を通して、説明の工夫の効果を実感する。</li> </ul> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>【技能活用のために 教師側が準備した対比画像資料】</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習を振り返り、単元の課題を解決するために必要な「説明の仕方の工夫」を確認する。</li> <li>○単元の課題のテーマを選び、学習した説明の仕方の工夫を用いて、「選ぶのはどちらだ？展覧会」のための説明文を書く。</li> </ul> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>【自由に交流する様子】</p> </div> </div>	<p><b>必要な情報に着目しながら全体を読む</b></p> <p>各単位時間ごとに、本時の学習では、教材文のどの段落、どのような文や言葉に着目すると解決できるのか、どのような既習事項が活用できるのか、必要な情報に着目しながら読みを進めることで、説明的文章の読み方の基本を身に付けさせる。</p> <p>既習の説明文での学習（段落・構成・事実と意見・問いと答え等）の中から、本時の学習に活用できる技能を児童に考えさせることで、主体的に課題に取り組む意欲を向上させたり、問題解決の手立てをより明確にさせたりする。</p> <p><b>技能の習得と活用</b></p> <p>教材文で学習した知識や技能を、教師側が意図的に準備した資料を使って活用させることで、理解を深めたり、その効果を実感させたりする。</p> <p>資料を準備する際には、児童の生活体験や実態に沿った題材を選択し、興味・関心がもちやすい題材を精選する。</p> <p><b>対話的な学びへの効果的な交流活動</b></p> <p>多様な考えを知り思考を深められるように、交流するグループを限定せず、学級内で自由に交流をさせるとともに、交流の視点を明確にすることで、意味のある交流ができるようにする。</p> <p>また、交流したことを全体で共有することで、学習課題に迫らせる。</p>
まとめる(2)	<p><b>3. 単元を振り返る</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「選ぶのはどちらだ？展覧会」で友達の書いた説明文を鑑賞する。</li> <li>○単元で学んだことを全体で共有する。</li> <li>○全体で共有したことを、自分の言葉でまとめる。</li> </ul> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>【学んだことをノートで振り返りながら、自分の言葉でまとめる様子】</p> </div> </div>	<p><b>学びの自覚とつながり</b></p> <p>単元で学んだ説明の仕方の工夫を用いて書いた、説明文を見合う活動を通して、具体的に身近な生活場面での技能の活用をイメージさせ、学びの広がりを実感させる。</p> <p>学習過程を想起させ、本単元で「何を学んだか」「何ができたようになったのか」「どのようにしてできたようになったのか」「日常のどのような場面で活用できるか」について、全体で共有させた後に、自分の言葉でまとめることで、学習の前後の変容を自覚させるとともに、次の学びの意欲につなげる。</p>

指導例：『アップとルーズで伝える』（第4学年 第1時）

1 教材文やモデル等と出会い、単元の課題を設定する。

○既習の単元を想起し、学習のつながりを感じる。

T：今までにどのような説明文を勉強しましたか？

S：「アリの行列」、「動いて、考えて、また動く」、「すがたをかえる大豆」、「うみのかくれんぼ」

○筆者は自分の考えをどのようにして述べているのか、説明の仕方の工夫を探る学習をすることを知る。

単元の課題 説明の仕方を工夫して、「選ぶのはどっちだ？ 展覧会」を開こう！

○モデルを示し、言語活動のイメージをもつ。

T：みんなも作れそうかな？

S：難しそうだけど、楽しそう。

S：自信はないけどやってみよう。

【本と映画を使ったモデル例】



2 本時のめあてをつかむ。

めあて 単元の課題を解決するために、これからどのようなことに着目して読み進めていくとよいか考えよう。

3 学習の見通しをもつ。

○話題を確認しながら範読を聞く。

○既習事項を基に、学習計画を立てる。

T：今まで説明文でどのようなことを学習しましたか？

S：段落・はじめ中おわり・話題・事実と意見・問いと答え。

T：説明の仕方の工夫を見付けるために、どのようなことに着目するといいいかな？

S：筆者の意見や考え、問いと答えに着目するのはどうかな？

S：でも、それは今までにもやってきたよ。

S：説明の工夫だから・・・考えの根拠に着目するのは？

S：写真と文を併せたり、文や言葉を比べたりするのはどうかな？

4 本時のまとめ・振り返りをする。

○黒板を見て、自分の考えをノートにまとめる。

○全体で共有するとともに、次時への意欲をもつ。

T：単元の課題を解決するために、どのようなことに着目していけばいいか、板書を見ながら自分の考えをまとめてみよう。

まとめ 単元の課題を解決するために、筆者の考えと根拠に着目したり、写真や文を比べたりして、説明の仕方の工夫を探る。

☆自分の考えを、分かりやすく相手に伝えるのは難しそうだけれど、説明の工夫を使って展覧会を開くのが楽しみな。

指導のポイント

学習のつながりを意識させる手立て①

○既習の単元を想起させるときに、下学年の教科書を提示するのは、効果的である。その際、物語文と説明文が混在しないように注意する。

適切な言語活動の提示

○具体的なモデルを示すなどして、目指すゴールの姿や単元を通して身に付ける力をイメージしやすくさせる。  
○子供の身近な題材を活用してモデル文を作成すると、より児童の関心が高まり意欲の向上につながる。

学習のつながりを意識させる手立て②

○既習事項を児童から出させ、学びのつながりを感じさせる。その際に、学習用語の確認にならないように注意する。  
○児童が、既習事項だけでは単元の課題が解決できないことに気づき、新たな資質・能力の必要性を感じることで、違う視点で考えられる活動を大切にする。

意欲につながる工夫

○自分たちで手立てを考え、全体で共有することで、課題解決に向けて、見通しと意欲をもたせる。

指導のポイント

指導例：『アップとルーズで伝える』（第4学年 第5時）

1 本時のめあてをつかむ。

○前時までの学習を振り返り、学んだことや課題追究のために必要な資質・能力を確認する。

S：説明の仕方の工夫で「写真」や「事例」を学習したことが、前のノートを見ると分かるね。

S：今日も説明の工夫を見付けるんだね。

めあて 事例に着目して説明の仕方の工夫を見付けよう。

学習の積み重ねを意識させる工夫

○前時のノートやプリントを見ることで、学習の流れや単元で身に付けさせたい資質・能力を確認させ、本時の学習の見通しをもたせるとともに、学習の積み重ねを意識させる。

2 課題を追究するために個で考える。

○事例（第4段落と第5段落）に着目し、二つの事例の関係を「対比」ということを知る。

○教師側が用意した事例（写真）の中から、視点を明確にして二つの対比事例を選択し、その使い方を考える。

S：視点によって、事例の選び方が変わってくるね。

S：一つの視点で、幾つも対比ができるかも。



【教師側が用意した事例】

資料活用で思考を深める工夫

○資料を使って、身に付けさせたい知識・技能を具体化した後、多様な考えを引き出せるような資料を提示しながら、児童の思考をより深められるようにする。

3 グループや学級で、課題を追究するための方法を共有し、焦点化を図る。

○視点が明確か、相違はあるか確認しながら意見を交流する。

○自他の考えを比較しながら、視点の違いを伝え合い、考えを深める。

S：同じ事例を選んでいるのに視点が違う友達がいたよ。

S：違う事例を選んでいるのに視点が同じ友達がいたよ。

S：こんな対比のさせ方や視点もあったんだね！



【自由に交流する様子】



効果的な交流活動

○多様な考えを知り、思考を深められるように、交流するグループを限定せず、学級内で自由に交流活動をさせる。

○友達との交流を通して知った共通点や相違点を、学級で共有することで課題に迫らせ、学習の深まりを実感させる。

4 本時のまとめ・振り返りをする。

○説明の仕方の工夫について分かったことを、自分の言葉でノートにまとめ、全体で共有する。

まとめ ・説明の仕方の工夫に、対比を使うと違いが分かりやすくなって相手に伝わりやすい。  
・目的に応じて使い分けるとよい。

☆展覧会をするときも、対比を使ってみたいな。

習得した知識を確認し、次の学習へつなげる工夫

○板書やワークシート、交流を通して学んだことを自分の言葉で記述させ、自分の中で整理させることで、次の学習へつなげるようにする。



指導例：『アップとルーズで伝える』（第4学年 第11時）

指導のポイント

1 本時のめあてをつかむ。

○今まで取り組んできた言語活動を振り返り、単元の課題を確認する。

T：「アップとルーズで伝える」の説明文の学習の中で、どのようなことに取り組んだかな？

S：説明文を使って展覧会を開いた。

めあて 説明の仕方の工夫に着目しながら、友達の作品を鑑賞しよう！

学びを自覚する手立て

○今まで取り組んできた言語活動や単元の課題について確認し、本時の学習を具体的にイメージさせる。

○学習過程を思い起こさせ、本単元で、「何を学んだか」「何ができるようになったか」「どのようにしてできるようになったか」について、学習の前後の変容を自覚させる。

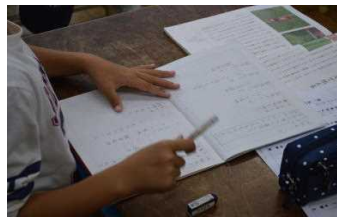
○児童生徒に身に付けさせたかった資質や能力が付いているかどうか、児童生徒の発表やノートに表れている考え方から確認する。

2 単元で学んだことを確認する。

○ノートを見返し、本単元では、筆者のどんな説明の仕方の工夫が読み取れたのか、全体で共有する。

○キーワードとなる言葉を確認する。

S：図や写真、事例や対比を使って説明する。



【学んだことをノートで確認】

学んだことを一般化するための工夫

○単元で学んだことを活用して書いた説明する文章を見合う活動を通して、具体的に技能の活用をイメージさせ、学びの広がりを実感させる。

○意見を共有する場を設け、児童の言葉でまとめて発表させたり、言葉を分かりやすく置き換えさせたりする活動を通して、学びを整理しやすくさせる。

3 学んだことを一般化して理解する。

○友達の作品を鑑賞する活動を通して、説明の仕方の工夫とその効果を全体で共有する。

S：事例が使われている作品は、すごく「そう！そう！」って思いながら読んで、説明が分かりやすかった。

S：対比が使われていると、同じ視点で読めるから、比べやすくして説明が分かりやすかった。



【友達の作品を鑑賞する様子】



【意見を共有する場面】

学びのつながりを実感させる工夫

○単元全体で学んだことが、ほかの場面で活用できることを再確認し、この先の学習活動や日常生活とのつながりを実感させ、次の学びの意欲につなげる。

4 単元全体の振り返りをする。

○単元全体で学んだことを、キーワードを使って自分なりの言葉でまとめる。

まとめ

- ・説明文を書くときには、写真や事例、対比を使うとより相手伝わりやすくなる。
- ・ほかの場面で使うときは、目的に応じて事例や対比を使い分けるとよい。

☆今度、説明文を書くときにも使えそう。

☆初めて対比を使って、楽しかった。

# 国語科学習指導案

平成30年10月 第4学年 指導者 橋 友代

## I 単元名 説明の工夫を読み取ろう「アップとルーズで伝える」

## II 学習指導要領上の位置付け

- (1) 考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。  
【知識及び技能 (2) 情報の扱い方に関する事項ア】
- (2) 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。  
【思考力、判断力、表現力等 C読むことオ】
- (3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。  
【学びに向かう力、人間性等】

## III 目 標

- 筆者の考えを支える理由や事例に着目して、次の指導事項が身に付けられるようにする。
- (1) 筆者の考えとそれを支える理由や事例を通して、情報と情報の関係を理解する。  
【知識及び技能 (2) 情報の扱い方に関する事項ア】
- (2) 文章の内容を捉え、考え理解したことを基に、自分の考えをもつことができる。  
【思考力、判断力、表現力等 C読むことオ】
- (3) 説明する際に、事例や対比を使うことのよさに気付き、自分の考えを工夫して伝えようとしている。  
【学びに向かう力、人間性等】

## IV 指導計画 ※別紙参照

## V 本時の展開（1／11）

- ねらい 学習の見通しをもたせることで、作品への関心を高め、学習課題への意欲をもてるようにする。
- 展開

学習活動（分）	○：留意点	点線囲：評価	☆：振り返りの子供の意識
<b>1 教材文やモデル等と出会い、単元の課題を設定する。（15分）</b> ○本單元では、筆者は自分の考えをどのようにして述べているのか、説明の仕方の工夫を探る学習をすることを伝える。 ○筆者の考えの中心はどこなのか、考えながら範読を聞くよう促す。 ○学習課題を提示し、完成させる作品のモデルを示しながら活動の概要を捉えさせる。			
学習課題 説明の仕方を工夫して、「選ぶのはどっちだ？展覧会」を開こう！			
<b>2 本時のめあてをつかむ。（2分）</b>			
めあて 学習課題を解決するために、これからどのようなことに着目して読み進めていくとよいか考えよう。			
<b>3 学習の見通しをもつ。（25分）</b> ○説明文を読むときに着目してきたことなど、既習の学習を想起させる。 ○個人で考えさせた後に、グループや学級で方法を共有させる。 ☆問いと答えの文を確認したり、事実と意見を見付けたりするのはどうだろう。 ☆言葉や文を比べる活動はできないかな。			
課題を解決するための読み方を知り、課題への興味をもっている。 <ノート・発言（3）>			
<b>4 本時のまとめ・振り返りをする。（3分）</b> ○板書を見ながら、自分の言葉でまとめるよう促す。 ☆学習した工夫を使って、自分の考えを伝えるのが楽しみ。 ☆展覧会を開くのはおもしろそう。			

## V 本時の展開 (5/11)

- ねらい 教材文の事例を基に「対比」を知り、活用する活動を通して、その効果を実感できるようにする。
- 展開

学習活動 (分)	○ : 留意点	点線囲 : 評価	☆ : 振り返りの子供の意識
<p>1 本時のめあてをつかむ。(5分)</p> <p>○前時に学習した「説明の仕方の工夫」を振り返り、事例について確認させる。</p> <p>○本時は、事例の書き方に着目して、説明の仕方の工夫を見付けることを知らせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">めあて 事例に着目して、説明の仕方の工夫を見付けよう。</div>			
<p>2 課題を追究するために個で考える。(13分)</p> <p>○前時に見つけた事例(第4段落と第5段落)に着目させ、二つの事例の関係に気付かせる。</p> <p>○このような二つの関係を「対比」ということを知らせる。</p> <p>○教師側が用意した画像資料の中から2枚選ばせ、どのような視点で対比させるのか考えさせる活動を通して、対比の使い方を学ばせる。</p>			
<p>3 グループや学級で、課題を追究するための方法を共有し、焦点化を図る。(20分)</p> <p>○各自が選んだ事例を対比の視点とともに交流させ、目的に応じて使い分けると効果的であることを実感させる。</p> <p>○交流して分かったことを発表させる際に、対比の視点に着目して聞くように促す。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">筆者の考えを支える事例に使われている対比の効果を理解し、自分なりの考えをもっている。&lt;ワークシート・ノート・発言(2)&gt;</div>			
<p>4 本時のまとめ・振り返りをする。(7分)</p> <p>○説明の仕方の工夫について分かったことを、自分の言葉でまとめるように促す。</p> <p>☆対比を使って説明すると、違いが分かりやすい。</p> <p>☆伝えたい内容や目的に合わせて対比を使うと、自分の考えがより伝わりやすくなることが分かった。</p>			

## V 本時の展開 (11/11)

- 1 ねらい 友達の作品を鑑賞する活動を通して、単元を通して身に付けた力がほかの場面でも活用できることを確認する。
- 2 展開

学習活動 (分)	○ : 留意点	点線囲 : 評価	☆ : 振り返りの子供の意識
<b>1 本時のめあてをつかむ。(2分)</b>			
めあて 説明の仕方の工夫に着目しながら、友達の作品を鑑賞しよう！			
<b>2 単元で学んだことを確認する。(5分)</b>			
○ワークシートやノートを見返し、どのようなことに着目して読むと筆者の考えや説明の仕方の工夫が読み取れたのか、全体で共有させる。			
○キーワードとなる言葉（事例・根拠・問いと答え・対比など）を確認させる。			
<hr style="border-top: 1px dashed black;"/>			
<b>3 学んだことを一般化して理解する。(30分)</b>			
○「選ぶのはどっちだ？ 展覧会」の鑑賞会（前時）を振り返り、友達の作品についてどのようなどころがよかったかについて意見を交流させる。			
○よい作品の特徴を全体で共有させる。			
○学んだことがほかの活動に活用できることを確認させる。			
説明の仕方の工夫について理解し、ほかの教科や教材でも活用しようとしている。 ＜ノート・発言（3）＞			
<b>4 単元全体の振り返りをする。(8分)</b>			
○単元全体で学んだことを、自分の言葉でまとめる際に、キーワードを使うように助言する。			
☆自分の考えを伝えるときには、対比を使うと伝わりやすいのだな。			
☆自分の意見を伝えるときには、事例を出すとより分かりやすくなることが分かった。			
☆写真を使うと、分かりやすくなる。			
☆今度、何かを説明する文を書くときに、使えそう。			



指導計画 小学校国語科 第4学年

単元名 説明の工夫を読み取ろう「アップとルーズで伝える」(全11時間計画)

目標	<p>筆者の考えを支える理由や事例に着目して、次の指導事項が身に付けられるようにする。</p> <p>(1) 筆者の考えとそれを支える理由や事例を通して、情報と情報の関係を理解すること。 【知識及び技能(2)情報の扱い方に関する事項ア】</p> <p>(2) 文章の内容を捉え、考え理解したことを基に、自分の考えをもつこと。 【思考力、判断力、表現力等 C読むことオ】</p> <p>(3) 説明する際に、事例や対比を使うことよさに気付き、自分の考えを工夫して伝えようとする事。 【学びに向かう力、人間性等】</p>		
評価規準	<p>(1) 筆者の考えとそれを支える理由や事例から、文と文との意味のつながりを理解することができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(ク)】</p> <p>(2) 文章を読んで考え理解したことを基に、自分の考えをもつことができる。 【C読むことオ】</p> <p>(3) 言葉のよさに気付き、自分の考えを工夫して伝えようとしている。 【国語への関心・意欲・態度】</p>		
過程	時間	☆振り返り(意識)	◇評価項目 〈方法(観点)〉
つかむ	<p>1</p> <p>○学習の見通しをもたせることで、作品への関心を高め、学習課題への意欲をもてるようにする。</p> <p>説明の仕方を工夫して、「選ぶのはどちらだ? 展覧会」を開こう!</p> <p>学習課題を解決するために、これからどのようなことに着目して読み進めていくとよいか考えよう。</p>	<p>☆問いと答えの文を探すと、説明の工夫に役立ちそう。</p> <p>☆写真と文を組み合わせるのはどうだろう。</p> <p>☆段落と段落がどうつながっているのか考えよう。</p>	<p>◇課題を解決するための読み方を知り、課題への興味をもっている。</p> <p>〈ノート・発言(3)〉</p>
追究する	<p>1</p> <p>○P 34～P 37の4枚の写真に着目させ、それぞれ対応している文を探す活動を通して、教材文の概要を捉えることができるようにする。</p> <p>写真に着目し、対応している文を抜き出そう。</p> <p>1</p> <p>○文章全体の問いの文と答えの文を見付ける活動を通して、筆者の考えを捉えることができるようにする。</p> <p>文章全体の問いと答えを見付け、筆者の考えを知ろう。</p> <p>1</p> <p>○筆者の考えを支える理由を見付ける活動を通して、理由に事例を使う説明の工夫に気付くようにする。</p> <p>筆者の考えに着目して、説明の仕方の工夫を見付けよう。</p> <p>1</p> <p>○教材文の事例を基に「対比」を知り、活用する活動を通して、その効果を実感できるようにする。</p> <p>事例に着目して、説明の仕方の工夫を見付けよう。</p> <p>1</p> <p>○今までの学習を振り返り、課題を解決するために必要な「説明の仕方の工夫」を確認させるとともに、段落同士の関係を捉えさせ、その役割に気付くことができるようにする。</p> <p>説明の仕方の工夫をまとめよう。</p> <p>1</p> <p>○資料の中から、自分の考えに合った学習課題のテーマを選ばせ、意欲的に課題解決に取り組めるようにする。</p> <p>課題を決めて、事例を考えよう。</p> <p>2</p> <p>○対比と事例を意識した説明文を書かせる活動を通して、学習の定着を図る。</p> <p>説明の仕方を工夫して説明文を書こう。</p>	<p>☆それぞれの写真の撮り方や選び方には意味があって、伝えたいことによって違いがある。</p> <p>☆問いと答えの文を見付けることで、筆者の考えが分かった。</p> <p>☆根拠に事例を使うと考えが分かりやすい。</p> <p>☆対比を使って説明すると、相手に伝わりやすくなったり、違いが分かりやすくなったりする。</p> <p>☆目的に応じて、対比や事例を使うと、相手に伝わりやすくなる。</p> <p>☆段落の役割は大切なんだ。</p> <p>☆事例を考えるのは難しいけれど、自分の考えが相手に伝わりやすい。</p> <p>☆対比を使った事例を入れて説明文を書くのは初めてで大変だけれど、みんなに見てもらおうのが楽しみだ。</p>	<p>◇写真と文を対応させて考え、本文の大体の内容を捉えている。</p> <p>〈教科書・発言(2)〉</p> <p>◇叙述を基に、筆者の考えを読み取っている。</p> <p>〈ノート・発言(2)〉</p> <p>◇叙述を基に、筆者の考えを支える理由や事例の効果を理解している。</p> <p>〈ノート・発言(1)〉</p> <p>◇筆者の考えを支える事例に使われている対比の効果を理解し、自分なりの考えをもっている。</p> <p>〈ワークシート・ノート 発言(2)〉</p> <p>◇叙述を基に、筆者の考えを支える説明の工夫や、段落の役割を理解している。</p> <p>〈ノート・発言(1)〉</p> <p>◇学習したことを理解し、活用しようとしている。</p> <p>〈ノート・発言(3)〉</p> <p>◇学習した二つの工夫を、自分の考えを表現するために活用している。</p> <p>〈ワークシート(2)〉</p>
まとめる	<p>2</p> <p>○友達の作品を鑑賞する活動を通して、単元を通して身に付けた力がほかの場面でも活用できることを確認する。</p> <p>説明の仕方の工夫に着目しながら、友達の作品を鑑賞しよう!</p>	<p>☆事例や写真、対比を使うと伝わりやすかった。</p> <p>☆目的に合わせて組合せるのがいい。</p>	<p>◇説明の仕方の工夫について理解し、ほかの教科や教材でも活用しようとしている。</p> <p>〈ノート・発言(3)〉</p>